

2021年度(令和3年度)
カラ事業報告書



見事に育ったバブグ村のニームオン街路樹

2021年度 マリ支援事業のご報告

マリの現状

マリ共和国では、2020年8月のクーデターでケイタ大統領が倒され、その後の暫定政権のヌダウ大統領も2021年5月に国軍兵士によって再度発生したクーデターで倒されました。内閣改造に対する不満がクーデターの原因と言われています。このように2年続いたクーデターにより現在(2022年10月)はディハディスト(イスラム教徒の異教徒との闘いを主張する人達)の勢力が強くなり、日本大使館もマリを退所するまでになってしまいました。国民生活は困窮し不安と危険が増しています。新型コロナウイルス感染については、一時の感染率の高い状況からは脱してはいるものの、収まっていません。

私は、現地を視察したという思いがありましたが、2021年度もマリへの出張はかないませんでした。マリへの入国は可能なものの、本来の目的であるカラの活動地域に入ることは非常に危険であることがスタッフからの連絡で知らされ、現地への出張は諦めました。

現在は我々の支援活動が減少し、さらに現地からの情報も入りにくく、会員の皆様にお見せする写真も非常に少なく、心苦しく思っております。

現地との連絡は、東京事務局からバマコ事務局のラミンジャワラへメールを送信、そこから現地村の唯一の男性スタッフであるムーサジャラへ携帯電話で連絡をとります。そしてムーサが村々を訪ね情報を得て、同じルートに戻って東京事務局へ情報が入ります。このような経路は日数や時間を要し、東京にはいつ返事が来るのか?と思いつつ過ごす毎日です。村々の情報を得ることは容易ではありません。また雨季には悪路になり、村の訪問に困難をきたします。

日本国内での活動について

日本国内の活動も依然とし続く新型コロナウイルス感染拡大の予防のため行動を制限し諸事の計画を実行できませんでした。

2021年に開催された「TOKYO2020オリンピック」では、岩手県盛岡市がマリの柔道選手のホストタウンとして事前合宿の受け入れ準備を進めていました。しかし、マリの柔道選手はアフリカ大陸内での試合でオリンピックの出場資格を得ることができず盛岡に来ることが出来ませんでした。マリの柔道選手の事前合宿のために数年にわたって多くの準備を整えて下さった盛岡市役所の担当の方々(盛岡市交流推進部スポーツ推進課スポーツツーリズム推進室)の思いも、残念ながらマリの選手には届きませんでした。それでもマリ共和国のアピール、カラのアピールにもご尽力してくださいましたことに心から感謝いたします。

ただ、盛岡市がホストタウンとして大変なご努力をして下さったお陰で、マリ共和国とカラの知名度が上昇し、思わぬご支援を頂戴することができました。

その一例が前年度に(一社)盛岡青年会議所さんのクラウドファンディングによる資金で、マリのシラブレ村に女性たち待望の識字教室建設が建設されたことです。この事業はSDGs推進に繋がる事業であると高く評価され、日本青年会議所主催の「AWARDS JAPAN 2021」で国内85事業のエントリーからグランプリを獲得しました。これは岩手県内で初の受賞だったということで、カラにとっても非常



小学校の無い村の識字教室で学習風景

に嬉しいことでした。

それらに関連して2021年5月31日には、盛岡市マリ出身の前京都精華大学学長のウスビ-サコ氏と村上とのトークセッションも開催する予定でしたが、こちらは新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、中止となりました。

2021年9月は、日本歯科医学会公開フォーラムで特別講演(リモート参加)、11月にはSI伊那(国際ソロプチミスト伊那)でカラの活動を紹介いたしました。この折はSIの方々に対面での講演ができたことでも親しみを感じました。

マリでの活動について

2021年度は、マリ現地に識字教室を2ヶ村と、野菜園の造成を行いました。支援の内容はこれまでと同様ですが、カラの現地スタッフが不在の村で村民の力だけで活動しています。

識字教室はブラジェ村とジョレ村に新築されました。どちらの村も女性達からの強い希望により建設されたものです。それぞれの識字教室には、ブラジェ村で35名、ジョレ村で20名(うち男性5名)が毎回出席しています。学習は1週間に3日で午後に行われています。

村の識字教師は過去にカラが主催した識字教師育成会で学んだ人たちです。雨期(5~9月まで)の期間は通常休講となりますが、ブラジェ村では雨期の間も週に2日夜間に識字教室を開いていたとのことです。ブラジェ村は非常に学習に熱心で、意識が高い村であることがわかります。

1997年頃に私とスタッフがこのブラジェ村の村長に、何か支援が必要であれば、と申し入れましたが、当時は村の開発には興味がないらしく聞き入れられませんでした。あの時から20年以上が経過した今、村の人たちの意識が変わってきました。それは、長老の支配する時代から若者の世代へと変わったためなのか、周囲の村々の状況を知って刺激されたからなのか、または幾度となく発生する国のクーデターで、自力で生きて行くことが重要であると悟ったのか、はっきりした理由はわかりかねますが、確実に村人の意識が変わってきました。これまでに私は多くの村を見してきました。そして人々の心を動かすのは、莫大な資金ではなく、我々の忍耐とその為の時間的余裕が絶対的に必要であると感じました。

2020年に開設したシンザニ村、バンザンドウ村とシラブレ村の識字教室も村の管理委員会により順調に活動が続いています。彼らは日常生活に無理のないように話し合い、問題が生じた時には相談して解決に導いています。

新規開設の野菜園は、チャンチェンブグー村とセリブグー村の2ヶ村に造成されました。野菜園は家族の食生活を仕切っている女性たち、つまり主婦が主体であり、彼女たちは近隣の村の野菜園の状況を見聞きして十分にメリットを知っていますから、迷いなく積極的に活動が継続されています。

栽培されている野菜は玉ネギやトマト、キャベツが主で女性たちの話し合いですべて管理されています。過去にカラのスタッフが指導していた時とは違って区画も綺麗に整備されていないと思います。しかし、それなりに日常生活に役立ち、すべては村の人達の力による活動が継続されることをカラは希望しています。現在は小規模な資金による支援ですが、これまでの経験を生かしている村の女性たちの力を信頼して見守っています。

そのような思いもあり、現在日本側から支援はカラの会員の方々への年度会費とご寄付を中心とした資金で賄うことに留めています。浅井戸の掘削費用や金網製家畜除けの防護柵の設置、そして複数年にわたる産院の開設なども支援に含まれます。

もし、日本からの支援に対して不足するようときは、村の人たちの力に期待し、村でやりくりするようにと、伝えてあります。

村の産院と診療所の歩み

次にカラがこれまでに開設した産院・診療所の運営管理の報告です。現地の村の青年スタッフのムーサジャラから産院の運営状況の報告がありました。次の表は開設時から2021年11月までの情報です。

産院・診療所名	開設年	2021年11月現在の蓄積額	日本円換算
コニナ診療所	2012	5,853,220cfa	1,246,735円
モバ診療所	2012	3,323,750cfa	707,958円
ヌムブグー診療所	2012	2,225,000cfa	473,925円
カチョラ診療所	2013	4,850,000cfa	1,033,050円
キバン診療所	2013	3,135,010cfa	667,757円
コニナブグー診療所	2013	8,239,625cfa	1,755,040円
ママブグー診療所	2016	4,178,335cfa	889,985円
バブグ診療所	2016	3,575,100cfa	761,496円
ニヤマコロブグ診療所	2016	3,235,725cfa	689,209円
ドゴニ診療所	2018	4,570,325cfa	973,479円
シラブレ診療所	2018	3,125,000cfa	665,625円

表中の換算率 1eurユーロ=140円 (1cfaセーファーフラン=0.213円)

上記の表中、一番収益を上げている産院・診療所はコニナブグー村の産院・診療所です。この助産師は開設時から非常に評判が高く、患者数が他の産院よりも多いので、当然収入が多くなります。しかし収入が多いということは病人が多いことにつながりますから、必ずしも良いことではないと思います。しかし病人を助け安全な出産の介助が行われているという意味で、村人に大いに役立っています。この産院では助産師1人では間に合わず、村で助産師を1名雇用しています。

上記の村の産院・診療所では、クリコロ町の要請により現在は赤十字が技術的な支援を行うようになり、まさに村単位の活動が行政を動かすようになったことの表れと言えます。

これを機にカラが2021年までに開設した産院・診療所について振り返ってみました。

カラが開設した産院・診療所は表中の村だけではありません。一番最初に開設したのは1993年マディナ村の診療所です。2019年までに順次マディナ村に隣接した村の産院(名前をどうしても思い出せません)、マフェレニ村やスバ村、ティネジェクリバリー村、ザナ村などの6ヶ村でも産院・診療所を開設しました。しかしこれらの村はカラの活動ベースの村からかなりの距離があり、悪路でもありますから表中のような情報を得る事も現状では難しいことでした。

産院・診療所の開設の難しさ

産院・診療所の開設について、資金があれば建物は問題なく建設できますが、大きな問題はここで働く助産師と看護師に適した学業経験のある人(義務教育で就学経験がありフランス語を理解できる)が村に居るか否かということです。

村に適当な人材が居ないからと言って町から雇用するのは簡単なことですが、雇用されて来た人と村人との間にいろいろな問題が発生し、運営管理が順調に進まないことが多いのです。我々日本人と違い、マリの人々は伝統的な部族意識が非常に強く、それが習慣や行動となって現れます。マリ人同士でも明確な意識の違いがあり、このようなことには、我々が口の出すことはできません。我々が支援活動の対象としてきた村々の構成は、同じ部族であり同じ家族名のファミリーですから、他のファミリーが入り違う部族の人が住むことは非常に難しいのです。

もしも村から産院・診療所を開設希望があった時には、その村の出身者が助産師や看護師として働くことがベストであると思い、ひたすらそうしてきました。他から人材が入り込むという事が難しい、あるいは不可能であるという、我々日本人にとっては非常に理解しにくい人間構成で村ができています。

マディナ村やスバ村のような大きな村には義務教育を終了した人がいるため、看護師や助産師の研修に1年間派遣するだけでよいので、その点では苦勞することがありませんでした。けれども、学校もない村には当然就学経験者がいません。しかし病人はこの村でも月日に関らず同じように発生し、子どもはどんどん生まれてきます。援助団体の入っている村の人たちは、頼めば支援団体が助けてくれるだろう、そして薬ももらえるし診療費も無料だろうと思いがちです。

しかし、カラが目指してきたのはそのような支援ではなく、村で管理する産院と診療所を作る事でした。そのため文字が書ける人がいない村では、村が希望してもすぐには産院は開設出来ないことを丁寧に親切に説明すると、村の人たちは「なるほど」と理解して教育の必要性を認識し、文字を覚えることに熱心になるのも稀ではありませんでした。

カラはこのような支援体制をとって来たので、多くの村民が望む産院や診療所の開設には、かなりの時間が必要でした。日本では考えられないことですが、このような世界が地球上にはまだ多くあるというのが事実です。

しかし、カラが現地を離れて数年経過しましたが、これまでの多くの支援が人々の日常生活に役立っていることは確かです。このように村の人たちが自らの力で逞しく事業を進め自立を構築しているのも、日本の皆さまがカラを支えて下さった賜物と考え、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

宮城学院の生徒さんたちのカラ支援についてのご紹介

平成15年(2003年)発行の英語の教科書【UNICORN】(文英堂)で村上の活動が紹介されていました。その教科書を使用していたのがきっかけとなり、宮城学院の生徒さんたちがカラの事業を支援し始めてくださいました。生徒会の方からカラに直接電話があり、文化祭で得た生徒会の収入をカラに寄付したい、という事から支援は始まりました。それ以後現在まで、宮城学院で講演を何回か行いました。クリスマスコンサートやクリスマスマルシェ、そして担当の先生がマリまで視察に見えられた事もあります。宮城学院創立130周年記念式典には、マリからアワカンサイを招聘して下さり、アワにとっては生涯の思い出となったようです。

代々引き継がれているご支援は18年間に及んでいます。これは、先生方やご父兄の方々のご指導によるものであり、そのお気持ちを忘れてはいけないと思っております。

2021年秋に授業の一環として行われた高校三年生の家庭科選択授業で、クッキーを作り販売、その売り上げを寄付して下さいました。担当の遠藤純子先生は「生徒たちにとっては発展途上国について学びながらの授業です」とおっしゃいます。生徒さんは、きっとマリに思いをはせて支援する気持ちを持ち続けていることと思います。



カラ支援についてのポスター

生徒さんが作った美味しそうなクッキー



宮城学院高3家庭科選択授業でクッキーを焼いて販売、カラへ支援をしてくださいました

2021年度(令和3年度) カラ会計報告

収入の部		(円)	支出の部		(円)
2021年度会費	720,000		マリ事業費		
寄附金	728,000		建設費・管理費・人件費	2,385,385	
助成金(WF基金)	200,000		日本事業費		
販売収入	76,400		管理費・人件費・交通費 ・通信費・事務用品費、その他	233,745	
			広報費・ 年次報告書作成費 (印刷・レイアウト・郵送費)	41,916	
預金利息	8		マリへ銀行送金手数料	7,500	
			会費入金手数料郵便局	6,140	
計	1,724,408		計	2,674,986	
前年度から繰り越し	1,339,093		次年度へ繰り越し	388,515	
合計	3,063,501		合計	3,063,501	

三菱UFJ銀行年度末残 159,785円 ゆう貯銀行 年度末残 216,773円
 年度末現金残 11,957円(使途不明金986円) カラ会計 監査担当

丸口洋子 神山明子

2022現地からの年度要請事業について

- 産院開設:ブラジェ村 ジョレ村 ● 女性活動センター:ブラジェ村、ジョレ村
- 識字学習センター:ムムブグー村 ● 女性野菜園の開設:ジャラコログー村

現在、上記の事業の要請がありますが、予算的に実施は非常に困難です。現在事業はカラ会員の方々の会費と支援者、団体さんからのご寄付で実施しております。しかし村の人達の為に一事業でも叶えることが出来ますよう、ご支援下をお願い致します。

年次報告書編集に当たって

例年より非常に遅くなり、今ようやく2021年度の事業の報告お伝えしておりますが、皆さまご承知のように未だ村上は現地へ行くことができず、お伝えできる情報が少ない状況です。

マリのバマコスタッフとは常にe-mailで、また村のスタッフとはバマコスタッフから携帯電話で連絡を取り合っていますが、不安定な政情やテロの発生で、特に首都に住む人々には非常な危険な日々であると聞いています。

カラ西アフリカ農村自立協力会 <http://ongcara.org/>

代表:村上 一枝

東京事務局

〒177-0054

東京都練馬区立野町7-9 クリオ吉祥寺壺番館101

Tel:03-3929-5767

E-mail: centre@ongcara.org

バマコ事務局

BP E367 BAMAKO MALI

Tel:223-2020-9096